

琉球大学学術リポジトリ

講義ノート：国際経済論 [第一章序論・学問と大学]

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38477

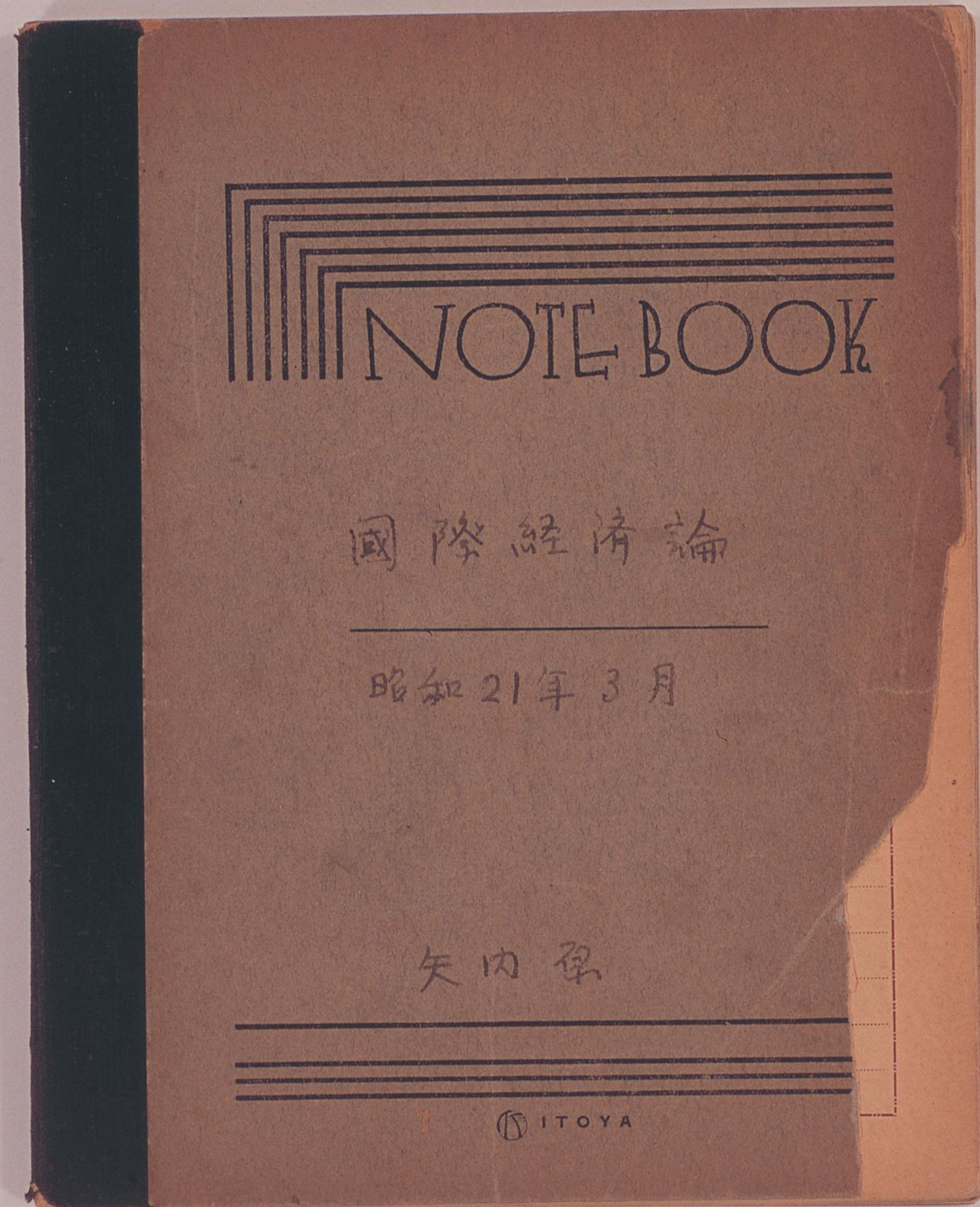
矢内原忠雄文庫

史料名	国際経済論昭和21年3月 [第一章序論・学問と大学]
封筒番号	517
原文所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成17年11月22日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号 : 517

史料名	国際経済論昭和21年3月 [第一章序論・学問と大学]
資料形態	ノート
枚数	29
頁数	58
縦 (cm)	20.2
横 (cm)	16.2
厚さ (cm)	
書誌的事項	講義ノート 記述は29頁まで、表紙の一部が破れている 今泉分類記号 : Y



1/10

界を物質的即ち非人格的存在と見、従つて世界
と人間の間に人格的關係の成立することを認めず。
然るに人間の人格は有限に於て變化の相の中に
生れず他の人を救ふの絶対無限永遠の人格
に於て成立し得ぬ見解を取る者には、
世界は人格的存在たるを得ず。人格的存在に
して見る世界を神と稱す。之に従へば真理とは理
性の面より神に神聖。神は真理と稱し得べし。
かく真理を人格化した呼ぶことは畢竟その比喩
的又は形容にあり。實體的意味を有するに在る。
かく真理との探求者の間に人格的實體を以てす。
即ち研究者は真理を畏み、真理を愛し、真理は研
究者を電感し、啓發す。ギリヤの φιλοσοφία が
σοφία を愛するは個々の断片的な知識を愛する
に於て神の智慧を愛するものにして、神はまた
哲學者に智慧を電感し、啓發す。此二義に於いて同
様に、学問は神の真理を畏れと愛とを以て崇拝せ
るにあり。神は真理の探求者に神聖と法則とを
以て之を助成するものと信せしめたるなり。かくのみ
真理に対する愛(真理愛)が学問的精神の實體なり。
学問的精神の旺盛なる者、之に於ては学問が
それ、世俗に対する学問の権威も生る。真理に対する

* 正作論者 —— 天啓降臨の神聖、神聖論(カリスマ、漢意の論)
正作論者 —— Potidem 宣言、
学問は政治の場内に行はれ或るものなり

界を学問の道徳と、不撓不屈の^{研究心}と、^{真理}の爲めに
行ふ断絶的行動も生るなり。[学問的精神なき處に学
問は起らず、そこにあるものは畢竟、内に於ての模倣的
断片的、皮肉の存在知識に過ぎざるなり] 我々に於ては
学問の貧困は實に学問的精神の貧困に外ならず。学問
を棄置せしめれば、学問的精神を放棄せざるべからず。
学問的精神の放棄は、真理に対する学問的知識を
振興せざるべからず。人徳として学問は学問の放棄を
いふ。決して然らず、^{真理を畏み愛する}学問は学問の基礎なり、前提
たるものなりと余は信ず。*

ベルンの日記 (1934. 11. 22)

洪田正彦氏 P. 207-212.

手田寛房、学問と藝術、

学問の前提的「思ひつき」(假説的術理)を
電感するものとしての藝術、

(二) 学問の前提

学問の対象は世界なり。世界は具體性を有するもの
なれば、学問による真理の把握も亦具體的 sachlich
たるべからず。觀念的な論理の遊戯は学
問にあり。学問は論理的なるを要すれども、
觀念的論理は必ず事實の論理か学問の生原なり
とす。[假に觀念上の論理は自ら矛盾を暗示す]

事實の論理を正しく把握するならば、それは正しき知識にして、かかる知識の基礎の上にはいつか觀念上の論理の矛盾を克服して正しき學問が建てられ得べし。之に反して事實に対する sachlich なる認識を讀む時は、いかに觀念的論理の体系が陥落し去るべきも、それは全作として層々の學問たるべし。之は事實關係の認識を監視表しは歪曲して、觀念的の体系樹立を事とする。ドイツ學問の公認主義、Formalism の弊害の存するあり。

△ 學問の対象は世界の如くに、學問は事實の分析にあり、眞理を把握せしむべきなり。故にその理論は事實關係の分析の中より生れざるべからず。分析の前提は、如く前提は常に事實の分析にあり、確證せし補強せし完成せしむるを要す。事實分析の前提たる事實的の前提は過去の事實の中より得るべきであり、究極の事実は事實中の事實の生れしもの之感應によるものなり。實は學問の前提にして學問の内容にはあらず、學問の内容は能くして事實分析の中より得られし理論にあり。

如く理論にのみならず、現実の個々の事實の言明を解明し、此の理論が事實に即して觀念的に構成せしむる學問

* 我々中「科学中心」といふことは、思惟せられたるが、之には意大なる二つの缺點あり。第一に、それは學問の精神を養ふべきをせずし、尤も未端的の知識の基礎に出るべきの深層の論議を以て、如く深層の如き科學の発達を阻害し。第二に、それは政治に對して世批判的の態度を主張する者より「唱へられざるが故に、科學を本質的に、政治の如き世間的に外する。それは社會科學の如く分析し、政治を學問的に論議せしむる「科学中心」を強く對して在り。

理論が、然らず人は「その實際」といふものが、個々の對向的の皮相の事實にして、全作として基本的事實の如きか如にして、正しき理論は常に正しき事實を説明し、正しき政策を指示し得べきなり。

△ 學問の対象は世界たるが如くに、學問はあつたが如く、戰闘的たるを得ず。戰闘的たるは遊戯的たるが如きなり。學問が世界に對する人の精神的活動の如く、それは世界觀に對する戰闘的なり。世界觀とは世界に對し、又世界に對する人の優位認識にして、人の地位を世界に對して完成せしむるの認識なり。即ち世界に對する人の思想及び利益は複雑にして、決して單一なる可し。

△ 眞理の如きは一つなれど、眞理の把握は能くして、戰闘を経ては正しき學問は発達し得ず。又世界を完成せしむる倫理的の目的に正しき學問はあり得ず。學問は層々の學問に對する遊戯は戰闘に外ならず。*

(三) 學問と政治

△ 學問は研究者の思想及境遇に對する制約を蒙り、易くもなれど、個人的差異は没却せしむる或る程度の客觀性を有つものなり。但し社會的集團に對して

(眞理は絶対的たるが如く、眞理の把握は相對的なり。眞理は一つなれど、

學問は

に關する

凡時、真理の把握若しくは真理への接近について著しき特色を呈するものあり。階級及び民族(若しくは市民)はかかる集団中最も著しきものなり。かかる場合、真理の爲めの学内的闘争は集団の政治的闘争と連続し、政治的闘争の一部と解せらるべきなり。左翼論者か学内の階級地を主張し、右翼論者が学内の民族性、国民地若しくは國家地を主張するが如き之なり。

マニエールの科学、民衆の科学、
科学的諸学

Mane 287
Class
分析主義的

〔学内の階級地を主張するものは社会の矛盾関係の分析を強調する点に於いて有力であり、之に反し学内の民族地を主張するものは神話的親縁的距離に立脚する点に於いて学内的なり。然るに、これら学内の反対地を主張する時、学内を政治に從屬せしむることの二途に於いて、両者は共通の立場にあり。〕〔思ふに、真理探求の角度に於いて、若しくは真理把握の態度に於いて階級的又は民族的に方針性を免れざるものありとせらる。此の如く絶対的なる世界の真理の存在を否定せざれば、世界的真理の存在を強むることに於いて、自説を強く主張すると共に他説の主張者に対し寛容を得。学内の闘争は大約に於いて真理の爲め協力せし得るなり。〔之に於いて学内

Nagi 287
Blut
分析主義的
也。

287

* Pascal がピレネーの嶺地方に於いて真理の探求を彼方に於いては真理を探求するに於いては、真理探求の南交若しくは把握の方向、乃至其の要領等の差を以てして、異なるに於いて、此の如く世界の真実を決定せしむるに於いて、学内に圍繞せしむるは学内の民族的地性を主張する以上、真理なり。後者の立場は實際に於いて、此の如く真理の探求の爲めに出でたる論には、学内を自らの生みの産物にせしむる。学内を自家の利益の爲め利用し、自家の利益の範囲に於いてのみ許容せしむるは、外に於いては

は然らざる。偏見と独断とを求められ、より真しき真理への把握に達し得べきなり。*]

学内は、^{人の世}世界完成の爲めの人の学問を以て同一の終局目的を有する他の把握の学問と必然に結合すべし。人間的な苦悩を自ら感ずる、之が解決せしむることを目的とするものは、此の如く政治と結び付くことは必しなり。闘争としての学内は、政治的なり。政治的なる学内は学内に於いて、然るに、此の如くは必ずしも学内が政治の手俵なり、政治の俵なりといふに非ず。学内は政治の指導者なり、政治の聲望としての立場に於いて、政治と関係を維持するに務むるなり。〔階級若しくは市民の爲め、学内は存在せしめらる。学内に於いて階級若しくは市民は同じ階級若しくは同じ市民たらしめらるべきなり。之れ果して階級若しくは市民よりも更に高き存在の存在を以てし、同連が唱へたる立正安國論正者なる聲と云はるべし。〕
〔階級若しくは市民の爲め、学内は存在せしめらる。学内に於いて階級若しくは市民は同じ階級若しくは同じ市民たらしめらるべきなり。之れ果して階級若しくは市民よりも更に高き存在の存在を以てし、同連が唱へたる立正安國論正者なる聲と云はるべし。〕
戦争中、我々の学内が如何に奮闘し、我々を奮起せしむる軍國主義の助手と爲り、我々と共に我々を見れば、学内は利益の爲めに存在す。真理の爲めに存在すの基本的認識が如何に稀薄なりしかを「世」たるを得ず。之は然るに、学内の抱負の稀薄なりしかを

政治的学問の政治性

面紙 P. 109-110
P. 120

は人格的存在なり。人格は陶冶すべきものに可なり。
徳性すべき存在なり。人格的観念の徳性こと、人の
道徳的責任の根柢なり。又学術研究の实体たるもの
なり。人格的観念の陶冶は学術的探究の必要前提
なり。大学^の目的は^{徳性}人格の陶冶と云ふ倫理的な
あり。[人格的観念の陶冶、^{徳性}学術的探究の涵養
いかに学術的探究にあつては可からず。] [徳性の陶冶
を世用なりと云ふに可らず。それは必要なること勿論なり
と云ふ。然し一俟俾育を言はず。徳性を言はず。]
△特に大学の目的は^{徳性}陶冶に在り。是は学術的探究の
涵養にして、而して之こと^{徳性}陶冶に貢献するや
大学特有の道徳なり。[徳性、^{徳性}人格の陶冶と云ふ
学術的探究の必要前提なり。況んや人格と徳性とを
混同するや。] [人格的観念の陶冶は個人主義の是法にして、
社会主義の是法に可らず。] [徳性を世用と云ふは、
徳性を世用と云ふに可らず。] 大学の
目的は「学術的探究と研究し及ば教授するに在り」と
いふを以て必要にして見らるる規定とすべきなり。]

大学の自由は絶対的なるべきなり。蓋し原理
は絶対的に自由たるべきなり。苟く原理の探究
に^{徳性}制限あり、学術的自由は他の勢力によりて^{徳性}制限せ
らるべきに可らず。但し大学の自由を政治的拘束
と云ふ可らず。換言すれば政治的自由の拘束と云ふ

March 15.
196

ふ可らず。大学と社会制度中に存在する材料と云ふ
もの自由は實際上制限せらるべきに可らず。大学と云ふは
國法より自由なる可らず。然し^{徳性}政治的自由の
制限と学術的自由との^{徳性}制限とを混同すべきに
可らず。学術的自由のものを大学自ら制限せらるべきに
可らず。何れも^{徳性}学術的探究の振興を期し得ん也
[曰く、^{徳性}自由の子に生れれば、身をば^{徳性}随へし
奔るべきや。心もば^{徳性}随へし奔るべきに可はず。
と。政治的拘束は^{徳性}学術的探究の^{徳性}振興を把握せし
は、学術は^{徳性}消滅するなり。]

斯くの如く大学の自由は絶対的なり。是の自由は^{徳性}政治
大学が学術の府と云ふに忠實なるべきに必要なり。換言す
ば、外に向つて自由を主張するは、内に向つて^{徳性}学
術的規律と^{徳性}簡潔を計らるべきに可らず。[学術的探
究に^{徳性}重しき教授あるか、之を^{徳性}放逐せらるべきに可らず。
学術的自由の^{徳性}伊たか^{徳性}解せらるる教授あるか、之を
免逐せらるべきに可らず。] 教授が相互に切磋琢磨し、
互に^{徳性}奨励といふ共通の目的のため、学術に^{徳性}特属し、
学術的探究の^{徳性}衝鋒と云ふ^{徳性}擡進するに^{徳性}可なり。[^{徳性}大学
の自由は^{徳性}相対的なり。] ^{徳性}学生と^{徳性}学術と云ふ^{徳性}この可なり。
学生に^{徳性}計らるる最大の教育は^{徳性}、[学術] 学術が^{徳性}大学卒業
を以て^{徳性}終止す。終生学術に^{徳性}計らるる興味、熱心と云ふは

Cronwell
"Priests"
"Ejectors"

第二章 日本植民地の喪失

(一) 満洲事変の原因

日本植民地の喪失は満洲事変に始まる。満洲事変は日本の植民帝国の大拡張を企圖し、却つて之が全部の喪失を招き出した大博奕たりしなり。之を博奕とするは、^{政治的}道徳的及び学術的根拠を有たざりし故なり。道徳的向來には、これは (1) 1922年 Washington 会議の政策の九國條約違反なり、(2) 事變の spontaneous 勃發を惹起し、國の内外を驚愕せしめたり、(3) 非常時憲法を強制し、國民の自由を弾圧することを開始したりしなり。

学術的向來とは、國際的關係、支那の情勢及び日本の政治至るの動向に於ける科學的認識の誤謬に基き、國際的實情に於ける認識の誤謬は國際聯盟撤退に於いて極まり、支那に於ける認識の誤謬は蔣介石政府の實力の評価、支那民族主義の発達段階に対する認識にありはなり。日本の政治至るの動向に因りて日本の資本主義化の要求及びその實力に於ける歪曲若しくは誤謬にあり。尤も之等誤謬の源に於けるものは日本の軍國主義なり。之に附

軍勢力
政治的

昭和12.2
中央日報
支那内政
の在

随に彼の勢力あり。之は ^{軍國主義} 軍國主義的及び資本主義的なる封建主義なり。其は ^{資本主義} 資本主義的及び帝國主義的義に立つアジヤ民族主義なり。其は ^{社会主義} 社会主義的化傾向に立つ支那義なり。之は又之の理想を以て軍國主義と協力なり。(王道政府は國家社会主義の扮装を以てしたる封建的イデオロギ-を規定すべし)。

日本の軍國主義が満洲事變を起したる原因は (1) 滿洲及支那本土に於ける Nationalism の發達に伴ふ ~~軍事~~ 征東日本帝國主義の信託的政策より滿蒙特殊權益の擁護が、平和的立場に於ては他地的に云々云々と認識し、
此。(對外交)

March 22, 46

(2) 昭和2年の絶倫恐慌以來日本の資本主義の飽和は農村の犠牲に於いて進行し、農村區別人口の圧力増大が感せられたこと

(3) 軍縮會議と政党政院の進歩化傾向の下に軍部自衛の失業若しくは勢力失墜の脅威が感せられたこと ^{進歩化傾向は}

故に満洲事變は、^{進歩化傾向} 征東の方式による滿蒙特殊權益の維持及發達が阻害せられたる國際的形勢(華府會議並に支那如何の打倒日本帝國)

主義軍部)、日本国内資本派の合理化軍部の下に
據地となつてゐる。(この種の最も重く課税地
とす)階級(軍部と農村)の自衛及救助の政
策たりものに外ならず。従つての充満
に對しては反資本主義的イデオロギの下に進行せ
らる。然れども滿州可変に對しては軍部と資本派
が資本主義と對等に典型的な帝國主義的模
範を示すに足りしは次の諸地由による。

- (1) 農村及軍部の救済は日本資本主義の安全を
たすこと。可変が成功すれば。
- (2) 滿蒙に對しては、又之に對する資本主義的利権の
擁護に在りし。
- (3) 軍部自、滿洲開發のためには資本と官僚とを
輸入の必要を感したること。

March 27

滿州可変開發後、日本の輿論が如何に是を認むに
止るべき地を以て、「これ以外に日本全島の生
きる道なかりしなり」とを言ふ second-best 論
を以て。余は是れより謂へば、道はあり。即ち
- 1. 滿蒙特殊政策若しくは特殊地域の發展
政策を放棄し、新蒙支那との全般的發展策
の下に、支那全土に亘りての日支経済交通を助
長促進せよ。

2. 日本国内の経済構構の近代化を推及
促進せよ。

3. 平和政策によりて南方陸に New Guinea
を開拓せよ。

4. 以上を實行するめには日本は軍部と資本派とを
放棄し軍部の大偏少を實行せよとせよ。

然るに日本の軍部は全陸軍の圧迫に對して最後のた
びに物狂の反逆を試み、而して日本資本派
は此の軍部の反逆を抑止するに日本の實力なく——此は
半面から見れば、日本に對しては殊に重大なる事
なり——かくして軍部と全陸軍とは滿州可變の進行
を阻害し、やがて一敗して日本帝國主義の死闘
としての大争戰に突入しむるなり。

(三) 滿州可變の外観的成功。

[滿州可變の成功を見るは左の可憐なる。

1. 陸軍長の堅持抗政策。(彼の武力抵抗の
準備未完)
2. 蔣介石(国民政府)の武力抗争の準備不十分。
3. 欧州に對しては、戰爭により第三國の干渉せられぬ。
大日本、國內に對しては、軍部と資本派との勢力の微力。
滿州可變が当り否、意外とす。

1. 満洲に於ける日本経済の隆盛を満洲に期待し得べしとの樂觀的論者は日本の専ら政費及軍備増強を以てして満洲に對する援助を初めとして其の對策を以てして協力するに在りしなり。

満洲事變の最期に於て宣傳せられたる案によれば、この事變は左記の利益を我が国にもたらすとせられたり。

(1) 日本の国防線を満洲に移すことにより、日本の国防費を軽減し得ること。(興業費)

(2) 満洲の資源を開発し、日滿經濟協力を建設することにより日本の経済の豊饒と自給性を確立し得ること。

(3) 大量の満洲移民を實行することにより、日本の農村を救済し得ること。

此の中第一の案に依りて日本は巨大なる陸軍を満洲に於て建設したるも、それが日本国防費の軽減となすべし事は完全な事なきなり。

第二の案に依りては第一次五年計画、第二次五年計画を立てて資源の開発に努め、石炭及び製鉄部、に於いて或る程度成功を収めたりしが(樺岡、阜新、西馬炭坑、鞍山製鉄所の拡張、東田道鉄道の開発)、日本経済の自給性確立には

遙かに遠くともなひ直に明白なり。

第三の案に於て二十年の間に百萬人の移民計画を立てしかばこの事變は概して失敗に終り、たゞ官僚、使用人等俸給の減及が都市長官等のために門戸を閉ざす。

かくの如く専ら宣傳せられたる結果は夢に過ぎぬといへども、満洲は國際政治の平凡地帯にして繁栄と安定の樂土たるを呈したり。蓋し

(1) 満洲の成立による行政の統一。

(2) 満洲中央銀行の成立による通貨の統一。

(3) 北滿のソ聯勢力の撤退による政治及金融行政の統一。

(4) 日本資本の輸入による交通施設、都市計画、各種工業の建設。

蓋し満洲を近代化する勢力として作用し、且つ満洲を日本帝國の有力なる一環として培養したり。この二つの目的を實現すため日本は満洲に統制を以てし国防國家政策を實行し、その政策は満洲に於いて行はれたる後日本に移されし活力に實行せられたり。

April 5.

〔満洲に於ける統制の特色は左の如し。〕

(1) 財政の統制 (a) 零碎資本の輸入

(b) 新興資本の輸入 (日産、銀行)

(2) 一業一社主義 (満鉄 Konzern の解体)

(3) 協和会による国民組織

満洲の行政政策の行状は次の諸条に現れる

(1) 五箇年計画による資本の濫費固定 (a) 生産の増進より軍需の増進を重んずる。 (b) 概算と設計による paper plan ありしこと。

(2) 資本の非能率的 (満鉄の独占を打破せんとす。各種企業間の Konzern 解消) 企てしもの失敗。 (満鉄解体)

(3) 資金流入の困難

(4) 労働力輸入の困難 — 北支の労力

(5) 土地制度改革の困難 — 満洲内部の地権制を格別の目的には土地制度を改革せざるべからず。これに於ては大地主たる満洲系大資産家の反対強く、程々の内戦は満洲の政治機構の根本的改革に善く切迫す。換言すれば満洲の日本植民地化の徹底を要する切迫す。

Oct. 18 '44

日本の満洲政策は日本に於て次の影響を及ぼす。

(1) 日本の公債の増加 (戦時負担)

(2) 支那市場の喪失 (満洲市場の拡張を以て相殺せしむ得ざる損失 — 戦時負担)

(4) 北支事変への諸因となすこと。

(a) 自然圏としての満洲の實力不足を北支に之を補ふこと。

(3) 日本の資本の
使用について
の影響

第三節 支那事変の性質とその結果 (1) 軍需・封建的支配と民間資本の支那。 (2) 北支の戦時中共 — 地帯革命に於て地方の勢力の消長と土地制度の改革。 (3) 支那の政治と半島資本。

太平洋戦争の性質とその結果

(1) 資本主義戦争の性質 — 大戦 — "have" or "have not"

(2) 半島の地帯 — Weltmacht への。

(3) 支那の地帯 — " "

(1) 労働力の供給と北支の地帯

(2) 工業原料 (主に棉花) の供給と北支の地帯

(3) 大豆及小麦に於て北支と満洲と大戦中の地帯。日本の需要と北支と北支の自然圏の強化となる。

(4) 鉄鉱石については (2) 及 (3) の両者の意味あり

(5) 満洲の国防上の防衛地域としての地帯

(6) 日本の国防的孤立

(7) 日本の軍需産業の相乗となる。

要するに満洲は軍需産業、一部資本家の勢力強化により日本全体中の抗張力を生ずる方針。民主主義的権力を抑圧し、国防的孤立に導き、国家滅亡の危機に逼らしめたるものなり。それ故に日本軍部国防政策の日本南境と共に満洲北境、日本全植民地の崩壊を招致したるなり。

日本軍部の政治的勢力把握は次の理由に基く。

(1) 日本資本主義の特性が軍需産業の発達にありしこと。従つて日本資本主義の矛盾を解きしむる平和的に — 武力の行使 — 発せしむる勢力としての資本家階級、若しくは労働階級の外に、封建的勢力が有力に強せられたること。

(2) 日本に於ける民主主義的権力の発達が貧弱なことに、これは教育の特性が資本主義的心偏したるに由る。

植民地
これは政府日本人の宗教の貧困にあり。

第四節

(三) 植民地の喪失の影響

植民地の本國経済に對して有る價值は實質的及び形式的に分けて考へらる。實質的とは本國資本及び労働力に對して植民地の生産が利益であること、並に本國植民地の貿易の拡張に對して一般の利益であり、形式的とは右の一般の利益が植民地領有といふ政治的便宜に對して他國に對して本國に對する相對的の利益なり。日本は敗戦の結果この兩種の利益を共に喪失した。即ち植民地の生産の利益を切斷せられたこと、又植民地に對して日本の既得の利益(資本、労働力、商賈)の喪失の對する日本の年々の生産及消費を減少することはいふまでもない。

一國の對外投資、移民及び貿易は植民地に對しての對行はるにあり。植民地に對しては實際的活動の一部に過ぎず、亦も莫大の利益を植民地を有するに對しては、この對して植民地投資、移民、貿易は全對外活動の中心を占むるに過ぎず。併しはかかる可成る利益が植民地の喪失が本國経済に對して有る影響を軽減

Nov. 1. '46

- x.) (1) 旧植民地自體の社會的connectionsを全部的に喪失することあり
- (2) 旧對敵的の貿易市場を奪ふことは不可なり
- (3) 果敢的に既得利益は日本の市場の喪失を不利と為すべし

するを得ず。その故は次の三點にあり。

(1) 植民地の對外的の重要性は近年増加に化傾向にあり

あり

(2) 本國の基礎産業について見れば植民地の對外的の重要性は全産業について平均以上に遙かに大なり

(3) 植民地に關聯して(直接に)實際投資、貿易、移民の利益が拡大せる傾向にあり

以上の諸點は現在資本主義の經濟に對して植民地の重要性の特色なり。

日本は植民地の政治的領有を失つたことにより、國際其他の政治的争奪により、植民地の喪失が本國に有利に連係するを得ず。資本、労働力、商賈の移動の方向は有利な本國に有利な政策的人為的に規定するを得ず。日本が植民地を完全と排除するに對しては、即ち對する現狀はいつても継続するにあり。これは日本に對する旧植民地たる地域の經濟に對して不利な不可逆の對するが故に、早晚日本との經濟的交連は恢復すべし。日本は孤立して經濟を營出を得ず。これを目標として經濟政策を定むべきにあり。植民地を失ふたことにより、實質的に國際經濟を恢復するに努力せらるべからず。我々の經濟の進むべき方向は次の

三項に對し。

- (1) 国内市場の擴張。(國民購買力の増加)
- (2) 国内生産費の低下による海外販路の獲得(技術及合理化の進歩)
- (3) 国防政策の維持(政治上の維持。(軍備の擴張及内政の民主主義化による實際的 good-will の獲得)。

和邦 (地産地消の特徴)

(四) 日本植民政策の概観

日本植民政策の特色は併呑のみに類似し、軍事的及同化的の点にあり。経済的開發及教育にも不熱心であり、植民地生産力の發達を促進し、その支配の勢力は本邦の資本主義に依り、全体として、日本の植民政策は典型的な資本主義の模範を示した。それ故に植民地社会に近代の統一と秩序を設定したと共に、本邦への従属関係を強化した。植民地居民の自主的なる意志を養成するに依り、一たび日本の軍隊による秩序が取り去ると、旧植民地は混亂状態を現出したり。この混亂の中、新しい秩序が成立する時、旧植民地は日本國に對し、良友として變り、否や、次の事情に依存する。

- (1) 此種に對し、日本の植民政策は、従来

日本人の植民地に對し、活動が、植民地に對し、永久的の養育を以てし、

- (2) 今後、日本政府及び國民の植民地的、
- (3) 實際的價值の進展。

非資本主義的環境内への資本主義の勢力の漸入(封建性と資本主義の對立的な差)。生息する日本國自体が、後進資本主義の植民地の型、社會組織を有し、その植民地に對し、階級的階級の關係が、民衆の關係と並列に、植民地居民に對し、一定の階級的關係を形成した。

植民政策

- 従属
- 同化
- 自主
- 協同

軍事的同化的、日併植民政策比較論、
國家學會雜誌 第51卷第2号 (昭和12. 12.)

第二、共学圏の理念

この経済の理念が排他的、排他的、対外的な対し、共学圏若しくは共同体の理念は民主的、平和的、対内的なり。併しこの現実の共学圏論は抽象的なる理念としてではなく、具体的なる歴史の現実の中に把握せしめらるべからず。日本が朝鮮、台湾、満州等に於て共存共栄といふ標語を用ひては古きことなるが、之は帝國主義を粉飾する美名として解せられしは、その政治の實が日本の排他的支配強化に有利なる故なり。

共学圏の理念が最もよく歴史的事実の発展の中に具体化せられたは British Commonwealth of Nations なるべし。これは

(1) 各 Dominion の民族国家的發達。即ち英帝と Dominion とは法律上用する Nation-State となり、その間の従属關係は除去せられ、この實際的民主主義的機構が共学圏の實體なり。

(2) Dominion は Nation-State としての自治的地位を獲得したるも、英帝に對し、又其他の Dominion に對して分離せず、却て英帝國の連統を強化せり。これは帝國主義の進展に伴ひ、他の帝子之強國と對立する世界情勢に於て英帝子國の

亦がその化せるなり。

(3) ^{民族} Dominion の民族的構成は一様ならず、非に、その指導的地位に立つものは英帝國より特權者若しくはその子孫に、即ち ^{英帝國} 英帝國の政治的連統の基礎には同一の民族的紐帯が存在す。併しこの ~~英帝~~ 之は有利なる事件に於て絶対必要事件にあらず

これは エイル又はインドについて知らざれば。 [共学圏の May 22.

必要事件は

- (a) 歴史の ~~連統~~ なる Social Connections
- (b) 絶對的、排他的、單一的なる Interessengemeinschaft.
- (c) 各國の自主的 ^{政治} 的獨立の確保。

共学圏内の各國は Nation-State としての自治性を有すべし、^{排他的} 國家主義の概念は之に通用せらるべし。各々其階級上の一國と認めらるるに於いて U.S.A の State と異れども、英帝國の構成要素たる其に於て単一的民族國家とも異る。これは國家概念に聯邦とも異るところの異なる國際政治体制なり。[これは民族主義より世界主義への推移の一段階を劃する ~~新~~ 体制なり。英帝國の Dominions 的地位は ^{帝國} 帝國主義の基礎を脱したる併しなからざるは世界政治、國際政治上英帝國が全体的 Imperium の段階に於てこれを完成せしむるに於てなり。]

22/11/22

Nov. 15, '26

大車重共学圏論は戦争遂行の必要上唱へられた向に全般的
付随的立場に於て、それは戦争の目的に打ち勝つ勝利
の目的を以てしたる手段に過ぎない。[唯だ戦争の
中より先づ戦争の必要に奉仕するもの、已に述べた如く、その
議論の主張を自ら認めたるもの] ^{従つて} ^{これは}

- (1) 著しく排他的な
- (2) 著しく軍事的な
- (3) 著しく日本中心的な

各地域に於ては、^{一應は} ^{これに} 民族意識を新陳し、
次に旧支配者を逐つて ^{一應は} 支配的なる勢力を
逐へたの感を得しつたものなり。[又大車重共学圏地獄中
最も著しい発展段階に近き比喩は日本の政策を行
つた既に半半に於て独立を公認せしむる日か近くなり
なり。支那が ^{共学圏} 日本下の侵略政策に外ならず
と爲し、南京政府すら ^{共学圏} 共学圏の名に於ては、實
を伴つたものなり。] 要するに大車重共学圏論は日本の
争用意識の美化に外ならずなり。
共学圏の理念そのものは ^{大車重共学圏} 大車重共学圏の一般論を平す。
併しこれを大史の現象として見たものは、大史そのものなり。
即ち現象の背景に外ならず。

第四章 論 大車重共学圏論

帝國主義に對する Lenin の定義は既に古典的なり。
^{従つて} 帝國主義を以て資本主義の発展的段階を以て
定義し、その重要な特徴として次の五項を挙げて、
1. 生産及資本の集中による発展段階に達し、
至る生活に對し、決定的な利益をとり出せしむ。
2. 銀行資本と産業資本とが融合し、この金融資本
の基礎の上に金融寡頭政治の成立せしむ。
3. 高率輸出に代つて資本輸出が重要な意味
を得ること。
4. 資本家の國際的獨立優位の成立して世界を
分割せしむ。
5. 資本主義強國の世界の領土的分割が最終
的なりと見得ること。

Nov. 27

帝國主義をば大史の各段階を以て現はれし
領土拡張論と見らる。或は大史の発展段階に
のみに資本主義時代の運動と見らる。又後者の
見解を以てしむるは、大史の発展段階
そのものと見らる。或は大史の発展段階に
見らるは、大史の議論に依せしむるものなり。
重要なことは次の諸項にあり。

- 1. 十九世紀の七、八十年代以後 植民地の維持、

新進の計画的

獲得及公債に因り列強の国策が自由主義的消担をより積極的態勢に変化せしむ

2. 植民地的発展が同時に世界の數倍子により同時に競争的に行はれり。 (一つの強子による帝國建設と異り)

この故に此時代の特色をば前時代と比較し帝國主義時代と呼ぶは適當であり、而して此時代の特色の「史的必然性」を究明し得る地帯を察見するに生きた學問的興味を感ず。 (而して之を獨り資本主義に在るは、Schumpeterの如く資本主義を以て帝國主義の反計物と見る見解に比し正當性を得ることを得ず)

資本主義が ~~資本主義~~ を要求するに理論的根拠は次の諸點に在り

1. 平均利潤率低下傾向の阻止、超額利潤の獲得

Inflationと新進の資本主義の傾向

2. 恐慌の回避 (a) 生産界内子の不均衡

3. 資本主義の自己拡大 (b) 國家資本の債務便宜

生産及交換の物の基礎の拡大、
国内の人口増加、
農村の資本主義化

Nov 24, 1916

1 May 29

(4) 最新優越(葛蘭)實現論的の植民地(非資本主義的環境)の必要
von Werner Rosa Luxemburg 氏

生産及交換の物の基礎の拡大とこの植民地は即ち社会主義の必要を自らも *imperialism* とは *nationalism* とは異なる。 (この場合も帝國主義とよぶか或は他の名詞を以てするかは帝國主義の定義の仕方によらば)

第一次世界大戦。世界は明白に帝國主義戦争なり、第二次世界大戦も同様なり。 國際聯盟、中立條約、民族主義、共産主義等は第一次世界大戦以前に是れは實際政治に現れたる現象なり、而して帝國主義の高度發展と見らば、帝國主義と異りたるものと見るを得ず。 (此は現在の世界を支配するものは金本主義に在る資本主義なり。 (次文参照))

日本は帝國主義者なり。 日露戦争以後日本は帝國主義者の實踐に入れり。 世に日本に於ける農村の封建制の残存並に外資輸入を以てして日本は帝國主義に對し帝國主義の(對策)として支那と同一立場に立つものを得ざるを得ず。 (此は日本及び其の歐州の諸國の如く) 日本は経済的に其の持善の地位を維持するに於ては、外資輸入と同時に之と取替るべき金銀を輸出するの必要を感ず。 日本は歐州に比し内産(金銀)帝國主義の域に在らざることを見らる可なり。

1 May 31

帝國主義は必らずに帝國主義者との競争に導く。是(帝國主義者)は其の(資本)の(権限)及(進歩)に(不)的(衝)刺、(防)御(持)つ(品)と(形)上(た)る(品)の(争)争(は)は(独)立(資本)主義(を)抑(止)する(に)向(つ)て、(帝)國(主義)者(に)對(し)て(外)國(の)解決(の)道(を)示(す)。Kautskyの(超)帝國(主義)論(は)其(上)論(と)い(ふ)べ(し)也、(経)済(學)論(第)八(卷)第(四)号(1914.5)(其)の(超)帝國(主義)論(に)對(し)て)。

封建時代

前頁補充 ↓

資本主義の発展

- 封建時代 — 王家の専横
- 自由主義時代 — 王家の不干渉
- 帝國主義時代 — 王家の没落
- 統制主義時代 — 王家資本主義、王家の専横的支配、干渉、統制、没落。

↓
社会主義

現代の特色

資本主義の発展

- (1) 王家資本主義の没落の強化
- (2) 王家統制の強化
- (3) 弱肉強食の民族主義冒険。小國獨立體の形式による國際政治支配。
- (4) 對世界和平(第一次、第二次)。

第四章 國際經濟論の接近

國際經濟の學問的研究には次の三つの道あり。
 (一) 國民經濟の發展と其の國際經濟の研究。是は一國の國民經濟を中心として、その勞働力、商材(serviceを含む)及資本がいかなる所に、いかんじに輸出せられたるか又いかんじに輸入せられたるかを見るものにして、かくの如き方法により互に國際し合ふ國民經濟の合作を國際經濟とよぶなり。 June 5.
 (二) 世界經濟の成立に着眼し、世界經濟の立場よりする國際經濟の研究。世界經濟は政治的には個々の國家に分れてゐるが、經濟的には國家を超越したる規模に於いて商材及び資本の世界市場が成立し、世界商材及び資本の供給關係は世界的に運動す。世界經濟の如きの立場より價值の生産及び分配の研究するに於て、國際經濟論の第一の道なり。
 (三) 諸國民經濟の比較。富の増加の速度の速き否あり、遅き否あり、停止せざるあり。其の原因を探求することは Adam Smithの富論の一つの目的とせざるを。諸國民經濟の構造、特質、發展段階、發展速度の比較研究を爲し、其の差別性を發見すに於て國際經濟論の第二の道なり。其の

(一) 國民經濟の發展と其の國際經濟の研究。是は一國の國民經濟を中心として、その勞働力、商材(serviceを含む)及資本がいかなる所に、いかんじに輸出せられたるか又いかんじに輸入せられたるかを見るものにして、かくの如き方法により互に國際し合ふ國民經濟の合作を國際經濟とよぶなり。 June 5.

意味に於ける国際移民論は比較民族論である。

国際移民論は上述の三つの道、若しくは三つの内容からなり、
このうち民族論は異文化の比較研究に於ける。資本主義
は労働力の世界的な移動、資本は商賈より更に世界的に富む。
資本主義は民族的な存在と共に世界的な存在。資本主義の下に於ける
民族論は世界的な存在と共に世界的な存在。資本主義の下に於ける
民族論は世界的な存在と共に世界的な存在。

移民の必要と結果 (その社会史 7.11.)

第五章 国際移民論

(一) 人口問題と国際移民の趨勢

人口問題には人口の量的問題と質的問題とあり、量的問題には
人口の自然増加率の問題と国際的移動の問題とあり。人口の
自然増加率は固定するに於て、^(この増加率は) 封建
時代に於ては人口は静止的であり、これは封建社会の経済が

Nov. 25/1948

静止的であるが故に、資本主義の初期段階に入ると、
人口自然増加率は急に上昇する。この社会の生産力が急激
に発達する。一方に於て産業革命は封建的
農村及都市(工業)の崩壊過程の中、過剰人口を作出し、
この過剰人口は都市工業に吸収せられたり、その
一部は国外に移住す。都市農村上の過剰人口は
都市工業の労働力需要よりも大なるを常とし、その
国外移住は農村の近代化、亦即ち国民経済の全般的
近代化の爲めに絶対必要なり。

産業革命の時代に於ては人口自然増加率は依然
上昇と共に国外への移民は減退す。一方に於ては
高率の移出民あり、他方に於ては^(高率の) 移入民あり、
全体として過剰人口は産業革命軍に国内に留る。

資本主義の段階に入ると及び人口自然増加率は
減退し、人口の^(自然) 増減は移民の増減と共に減じ、
出生率の低下と共に人口は静止的となり、海外移民
の減少は

X 又 社会の合従関係は均等に生ずるが故に 絶対的人口過剰は
社会の各階級に均等に生ずるが故に 絶対的人口過剰は 均等に生ずるが故に
均等に生ずるが故に 絶対的人口過剰は 均等に生ずるが故に

の発展は 均等に生ずるが故に 絶対的人口過剰は 均等に生ずるが故に
均等に生ずるが故に 絶対的人口過剰は 均等に生ずるが故に
均等に生ずるが故に 絶対的人口過剰は 均等に生ずるが故に

(二) 過剰人口論

一國人口は何に對し 過剰(或は過小)と云はれるか之を
土地其他の自然条件に對する割合と云ふべきなり 絶
對的過剰人口論と稱し、資本に對して云ふべきは 批判的
過剰人口論と稱す。前者を代表するは Malthus 也。後者
を代表するは Marx 也。尤も絶對的過剰人口論と云ふは
一定の先進程度の條件を前提とするが如し、民族貧乏論者
に對しては 絶對的過剰人口は存在せざるべしと云ふべし。
絶對的過剰人口は 農業社会に於て発生す。蓋し土地の
面積及生産力には 自然的制限ありが如し、之の上に 勞働
せざるべし 資本に對しては 自然的制限あり、從つて 一定の土地の上に
働かざる人口に 自然的制限あり、一定の人口増加率、一定の先
進程度は 農業 收益を前提とするが如し、土地に對して 過剰
な人口を生ずべし。 物 (Poverty of Vice 説)

批判的過剰人口は 資本主義の人口増加率に 對して 過剰に
生ずるが故に 絶對的過剰人口は 均等に生ずるが故に
均等に生ずるが故に 絶對的過剰人口は 均等に生ずるが故に

95年 絶對的人口過剰と 批判的過剰人口の 相互的關係 (自然と社会
の相互的關係) 批判的過剰人口 均等に生ずるが故に
均等に生ずるが故に 絶對的過剰人口は 均等に生ずるが故に

人口を 均等に生ずるが故に 絶對的過剰人口は 均等に生ずるが故に
均等に生ずるが故に 絶對的過剰人口は 均等に生ずるが故に
均等に生ずるが故に 絶對的過剰人口は 均等に生ずるが故に

(三) 國際移民の條件及結果

人口は 過剰のより 過少の國に 移住し、移出國に於
ては 土地及資本に對し 人口の Optimum
size (最適量) を 実現せんとす。但し 最適量人口は
國定の大ききには あり得ず、史的に 變遷す。[土地の
擴張 (土地の面積は 増大せしむる)、資本の移動及
勞働力の移動は 相互的に 關聯す。勞動者及資本は 勞働力
の移動と共に 別個の國に 移住す。資本及勞働力は 勞働
力と共に 移住す。[移民受容國に對しては 移民の
子種の増加は 増加す。即ち] 人口は Optimum
size に 近づくと 從つて、移出國は 減少す。人口は 子種
の増加と共に 變化す。(Americanization, Nation
in Being)]

よりの協定の成立

(2) 生産協定の言葉は、何れも何れも、何れも何れも

この協定は協定の生産協定協定の言葉は、何れも何れも、何れも何れも

Jan. 13. 48

若しこれの協定の成立は、世界の生産協定の協定は、何れも何れも、何れも何れも

1. 国民の購買力

2. 生産協定の大量生産性

3. 国内市場の縮小は、何れも何れも、何れも何れも

1. Inflation 下に、何れも何れも、何れも何れも

2. 賠償、賠償交渉、何れも何れも、何れも何れも

3. 必要に、何れも何れも、何れも何れも

4. Over-production の際、何れも何れも、何れも何れも

5. 生産協定の目的、何れも何れも、何れも何れも

第六章 国際貿易論

国際的協業 生産と国際市場の成立を前提とし、
交通機関の進歩と、金融取引の発達と

政治的協定の自由を必要とし、
国際的協業が、何れも何れも、何れも何れも

国際的協業は、何れも何れも、何れも何れも

(1) 国内市場の生産と、何れも何れも、何れも何れも

(2) (mono-culture 単一作物) の生産と、何れも何れも、何れも何れも

この問題は、輸出の代償と、何れも何れも、何れも何れも

(1) 輸出代償が、投資に、何れも何れも、何れも何れも

(2) 輸入品が、消費に、何れも何れも、何れも何れも

(3) 世界市場の、何れも何れも、何れも何れも

Van der Boven 1830.

自由貿易の国際的公平性が把持地を他國に譲渡するに
対する圧力制は之が為なり。實に

(1) 競争の均等 (自由が各子國に及ぶこと) は
等と等への国民的均等性。次に他國の便宜の
發達の動機と云ふを得ず。其内に於て各子國の
均等の均等性を、各把持地が、均等の均等性を
子國の均等の均等性と併行して行はるべきなり。

平等
均等貿易の
均等

均等貿易の均等性は各子國の均等性。多節的均等性。自由貿易理論に於ては、均等貿易の均等性。すなわち輸出輸入は均等。均等貿易の均等性と云ふは、均等貿易の均等性。

均等貿易の
均等貿易の均等性

(1) 資本主義均等貿易に於ては、均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

(2) 各子國は把持地の資本主義の均等性は、mono-cultureより各把持地の均等性を維持し、自由貿易の均等性を維持せしむ。

absolute advantage
relative

(3) mono-cultureの均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

世界貿易の均等の均等性の均等性。世界貿易の均等性の均等性。世界貿易の均等性の均等性。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

均等貿易の均等性は、均等貿易の均等性を維持せしむ。均等貿易の均等性を維持せしむ。

又 國家の代表として國際的協定の行はるべきは、自由貿易の原則に
限らず、一國の政策の限り、或は生産の急進を抑制し、或は消費の
急進を抑制し（債務の償還）、生産の急進の（生産制限）
急進を抑制し（債務の償還）、生産の急進の（生産制限）

第二次世界大戦後に於ける世界の政治的展望は、
際限なく各主要國に對する輸出量の削減が國際
的に協定の、或は政治的考慮が多少に増加する
ことがある。各主要國の農業生産の削減に伴ふ影響の
國際的展望は、國際貿易の常軌に復すべし。今般
の競争は、この破壊的傾向に對して國際的規則に於て行はるべき、
この復興も亦世界的に行はるべきを得ず。世界の政
治的展望は世界的に克服せらるべきは

- (1) 各國民の生存権の承認と治安維持の必要
- (2) 各國民の経済的世界の協同

に基くものとして、實に世界大戦の費用の一部を、

世界大戦の費用

- ① 半自由貿易協定の締結によるもの（自由貿易の原則）
- ② 國際的協定の barter system の普及（生産消費の均衡を必要とするもの）
- ③ 世界資本主義 — 提議者理論 (Kautsky) 世界國際協定
- ④ 世界大戦の費用

- (1) 國際貿易論の立場より日本の過去現在及将来を論ぜよ
 - (2) 日本は帝國主義を言ふか
 - (3) 資本主義と國際貿易の關係を論ぜよ
- 以上の中より —

第一節 國際貿易の特點の探求

第七章 國際投資論

(一) 國際移民、國際貿易、國際投資の關聯。
國民經濟の資本主義化に伴ふ先づ作り出すものは
過剩人口にして、資本主義の初期段階に於ける
地産地消の中心は過剩人口の移転にありたり
(Bacon)。次いで過剩人口は資本主義の生産
の急進に伴ふ過剩人口に對する國內信用の支持力
が増すと共に、過剩人口の力に市場を拡張する
が地産地消の中心となる。然るに資本主義の更に
高度化するに伴ふ過剩資本の輸出が、商品輸出と
併行して、而して更に優位を占むるに到る。
資本輸出の行はるべき原因は次の如し。

- (1) 資本の過剩蓄積
- (a) 利潤率の低下
- (b) 恐慌
- (c) 資本の死蔵

資本の過剩蓄積は次の原因により起る。

- (1) 土地改良に對する過剩
- (2) 独占資本の政策としての生産制限
- (3) 過剩人口は、或る程度は過剩資本を輸出する手段としての資本輸出。
- (4) 特權地としての産業の創設

土地改良に對する過剩は、生産制限の手段として、過剩資本を輸出する手段としての資本輸出。

- (2) 貿易輸出入に對する credit の設定
- (3) 国内産業、振興に伴つて増大する原料の輸入、大量輸入を確保するため、自己資金に對する財政的支拂、開放。
- (4) 政治的支配を目的とする貸付。— Dollar Diplomacy

資本の国際的移動

(一) 國際投資の形態及種類

國際的金融市場の成立は、資本の國際的移動は次の三つの形態で行はれる。

- (1) 高利貸貸付。—— 輸出高價の代償に投資の対しては、輸出は高價輸出であり共に高品質の輸出の輸出と見做される。
- (2) 生産投資。—— 機械、工場等生産設備の移轉の助金制。(後述)
- (3) 貨幣貸付。—— credit の設定、公債利便の発行等。

國際金融市場の成立は、世界に對する資本貸付を以て、世界に對する資本需要國に供する。資本貸付は尤、理由に於て、資本主義の初期段階に對する對策の案

- (1) 資本主義の初期段階に對する對策の案
- (2) 資本主義の発展段階及び國家資本の移轉

① 國際金融市場の成立は、資本に對する平均化の傾向あり、資本の國際市場は、資本の國際市場

- 以下の一時的の過剰貸付
- (3) 国内の金融的不安定による貨幣貸付の過剰 (Capital Fluctuation)

(4) 資本の過剰貸付

國際投資は各資本國が單獨に行ふことあり、又は數國が合謀 Syndicate (投資團) を組織して行ふことあり。又投資を受くる國は、資本一國に對して受けることあり、同時に數國に對して受けることあり。第一次大戦後に於ては世界には高投資力ある數國の資本國併存し、相互に借款團、又は四半借款團が組織せられたり。第二次大戦後に於ては尤、米、英、法、日、露の五國が世界の主要な資本國として併存し、世界の自由貿易と、各國に對する輸入 credit の許容 (資本輸出の一形態) と、國際的金融市場の形成による國際通貨の安定と、國際通貨基金による外為市場の安定と計り、且つ子孫復興開發銀行の設置による國際投資の促進とを計らんとす。

Bretton-Woods 協定に於ける國際通貨基金會議 1944年7月

- (1) 國際通貨基金 (総資産 88 億米ドル)
 - (2) 國際復興開發銀行 (総資産 100 億米ドル)
- 米子の出資は 基金に 27 億 5 千万ドル
銀行に 31 億 7 千万ドル

従来

資本主義はその結果として政治的支配の排他的な
或いは政治的支配を目的として資本主義を行ってきた。
帝国主義政策の中心を成すものなるが、文藝後
期に資本主義の政治的優越は世界に対する資本
の政治的、経済的、文化的支配を拒絶するものとなり、
資本が世界の emancipator であり、或いは
dominator であるが、資本主義の世界史的発展に
ついでに、試みられたもの。

世界の将来は資本とソ連との間に、ソ連は資本的には
資本の援助を受ける必要はない、軍力に於いては
ソ連は、Ideologie にも資本に劣るし、得べき
唯一の強者はソ連である。而して日本は此の二大陸
の間に挟まれ、自らの交戦力を奪はれ、交戦権を喪
失し、自らの存在と運命を世界に平和愛好者
の公算と信義に依存せしめられた。日本が置かれた
大陸の立場は紀元前八世紀の Assyria
及 Egypt = 大陸の間に押された Judah である。
或いは紀元前 B.C. の頃 Babylon, Egypt = 大陸の
間に押された Judah である。此の間に日本
自ら公正と信義を失い、信じていた平和の
道に立つておらず、自らを、計を練るもの
ありと定めた。

第一節 国際平和と子孫平和

1. 世界自らの意志
 - a. 土地争いの問題
 - b. 労働力の移動
 - c. 資本及び技術の交流
 - d.)

2. 各国の不均衡な発展

3. 資本主義の
資本と労働
の不均衡な発展
の不均衡な発展

第八章 国際平和論

国際平和は各大陸の発展を促し、又子孫平和
の保障をなし、併し各大陸の発展は互に子孫平和
と同義であるに非ざる。一方に於ては戦争に上
つて大陸の発展の妨げとなるが成立した歴史的事実、
他方においては大陸間の関係が戦争の原因となる
あり。国際平和は各大陸の発展と保障の必要は
絶えずあり、此の国際平和と保障の必要は各大陸
の発展の必要は絶えずあり。

- 国際平和を規定し維持する道は次の二つである。
- (1) 国際的協定、国際会議。之は Internationalism にて、Nationalism を基礎とし、
各大陸間の関係を互に調整するものあり、
然れども、種々の政府争いの道に於て、利害関係の
変化に伴い常に決裂の危険を帯びる。
 - (2) 世界国家。World-State。之は各大陸
の主権を全面的に廃止し、各大陸
国家の上を立つて一つの法律に於て各大陸の利益を
統制するものあり、若しそれが實現に成らば
世界平和の保障あり。但し世界国家が延
びるに於て、各大陸の排他的な「帝国」の存在は、
支配的少数の意志と被支配多数の意志との間に

内部的崩壊の危険を切迫するに依り、世界平和が
更に鞏固に成立する為には U.S.A. の各 State
の同一民族意識、同一-Interesgemeinschaft
意識に基く必要す。此の目的 Interesgemeinschaft
意識の成立は以下の条件を必要とし、

- (1) 同一民族意識の育成
- (2) 経済的、文化的交通
- (3) 共同防衛

然るに、世界を一つとする世界平和の目的は、

- (1) 意識的差異が大なるに過ぎ
- (2) 各国民の政治的意識の岐路、構造、及び新案
案の variety が大なるに過ぎ
- (3) 世界を一つとする場合共同防衛が外に
不可なり

以上の問題は、世界平和の成立を困難にするに
向は二果あり、

- 第一は、各国民の生存権の衝突、
 - 第二は、世界平和の必要、
- 即ち各国民の生存権を平等に承認し、世界を一つ
の法的秩序下に統制するにあり。かかる世界平和を
實現する為には、各国民の意識を一つの方向に
統一するに必要あり、實現を保障するに必要あり、

結局に於ては、各国民の意識の統一の程度を測るに
依り、世界平和の目的は、自らの利益中心に依り、
必ずしも達成される必要あり、然るに、此の目的は、人類の
進歩に依り、必ずしも達成される必要あり、世界を一つとし
て之を統制し、唯一の法を以て之を統制し、
由るべからず、世界中に於ては、世界平和の
基礎を以、世界平和は、世界平和の基礎を以、
なり。而して世界平和は、世界平和の frame たり、
構造たり、なり。

June 26th '46

Norman Angell,
Emery Reeves.

学術について
第一章 序論 Oct. 9, 1946.

世界文化七月号
「学術的探究
と大学の使命」

一、学術と技術

技術は学術の応用 ^(応用と発達) 学術は技術の進歩に
よる研究の便宜を与へるが、学術と技術とは性質上
異なるもの、技術は学術に依り、学術は技術に依り、
学術の本質は真理の探求たることにあり、真理は主として
自由のうちにのみ探求され得る。他者の手段として
存在するものには、^{主として}真理は自由なうちにのみ探求され得る。
学術は他の何者の奴隷たるものにはならず、学術を以て
功利を以てするものは学術の精神に於ては
價値無し。

二、学術と政治

学術の目的は真理にあり、政治の目的は ^{社会}正義の實現に
あり、真理は知識の根柢たるに依り、正義の根柢たる
ものなり、学術と政治とは究極に於て同一目的の實
現に向へるは明かなり、学術によりて指導せしむべき政治が
誤謬を犯さば、^{正義の實現}政治の目的もまた成らざる学術は dilettante
なり、併し是が故に学術が政治に密着するに
必要とすべしとせざるべし。学術は政治の枠の中にて學
ぶべき、学術の精神は政治を超越せざるべし。
^{理想}

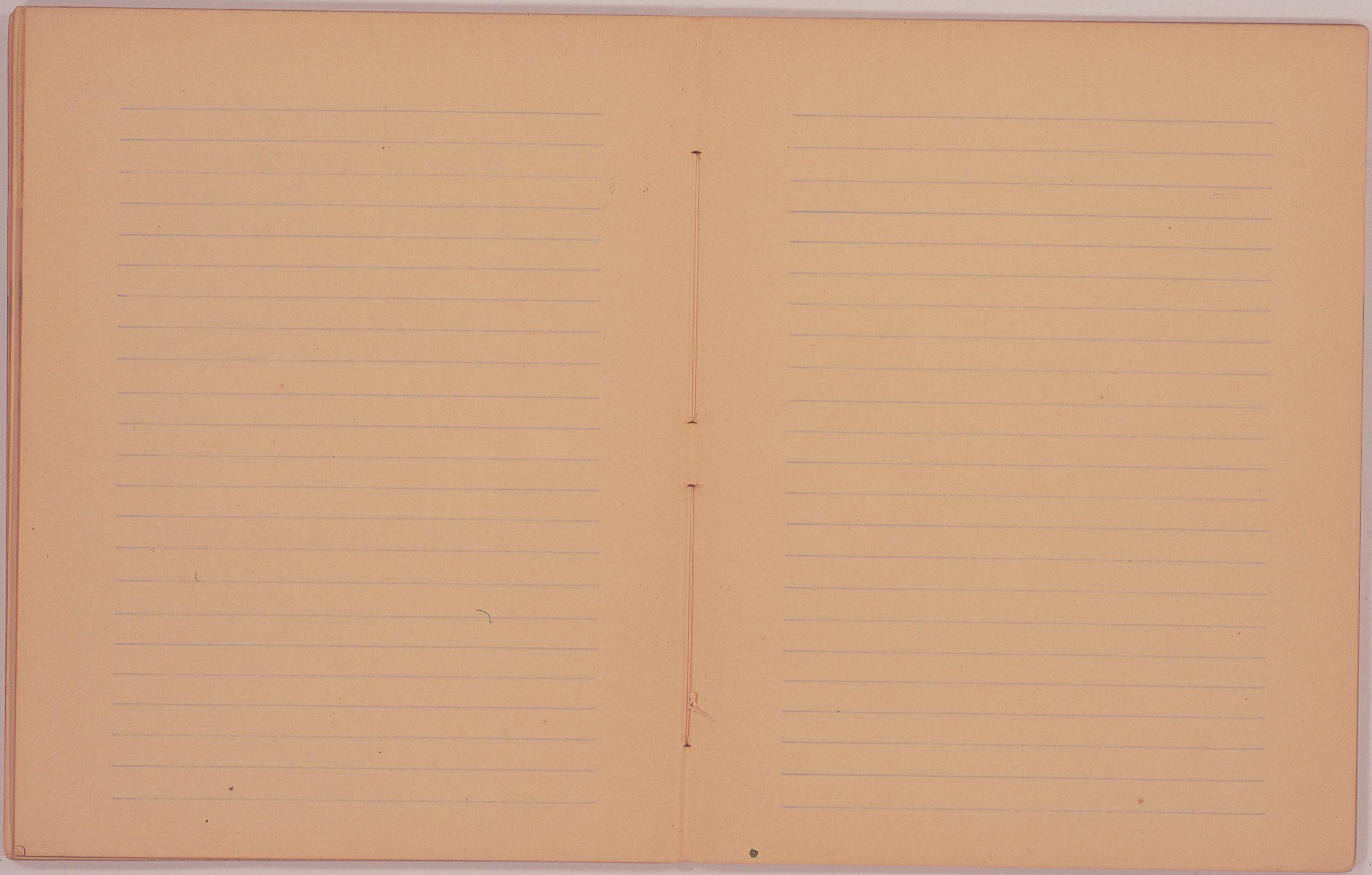
第八章 國際平物論

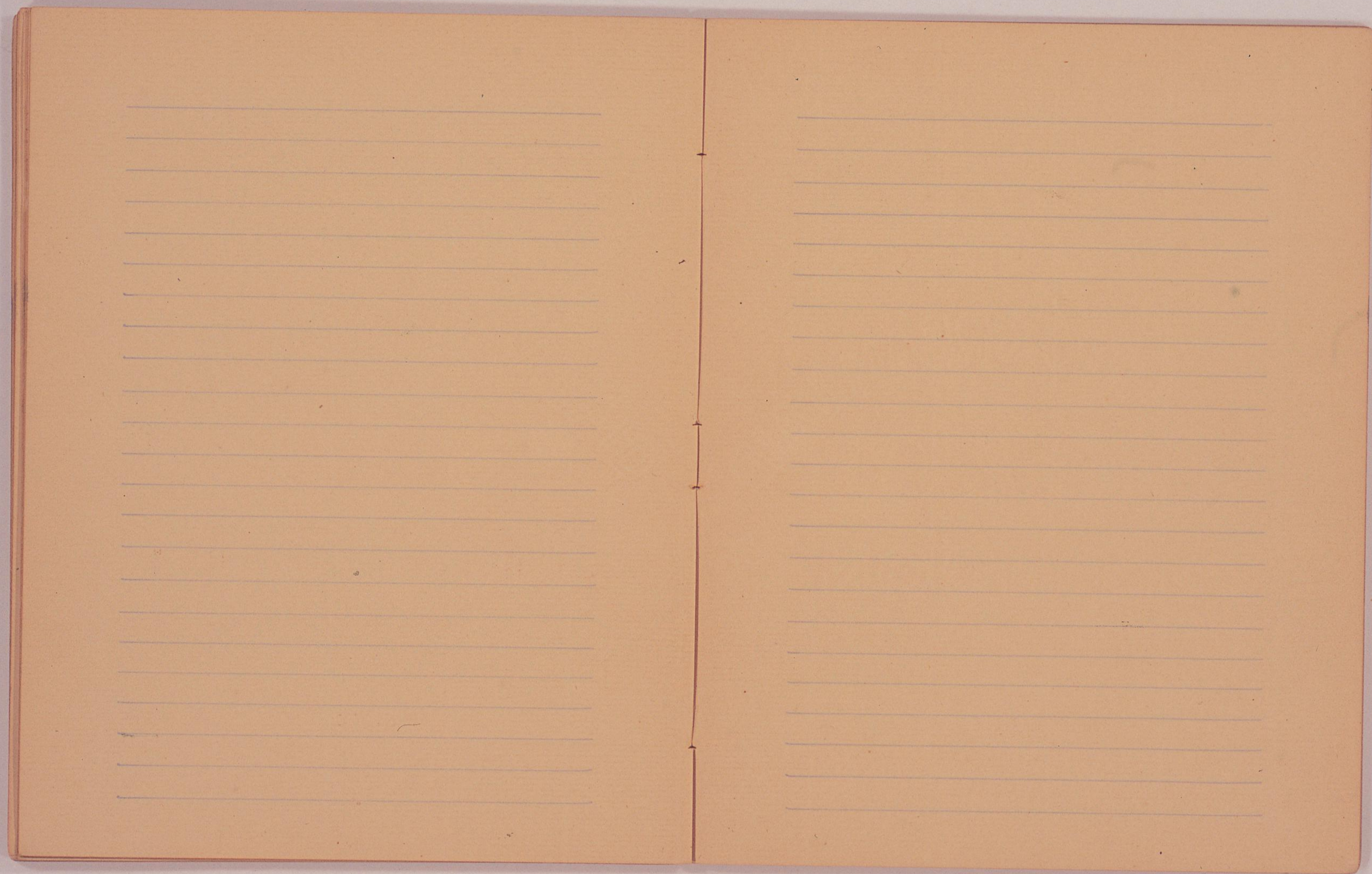
一、戰爭の國際經濟に及ぼす影響

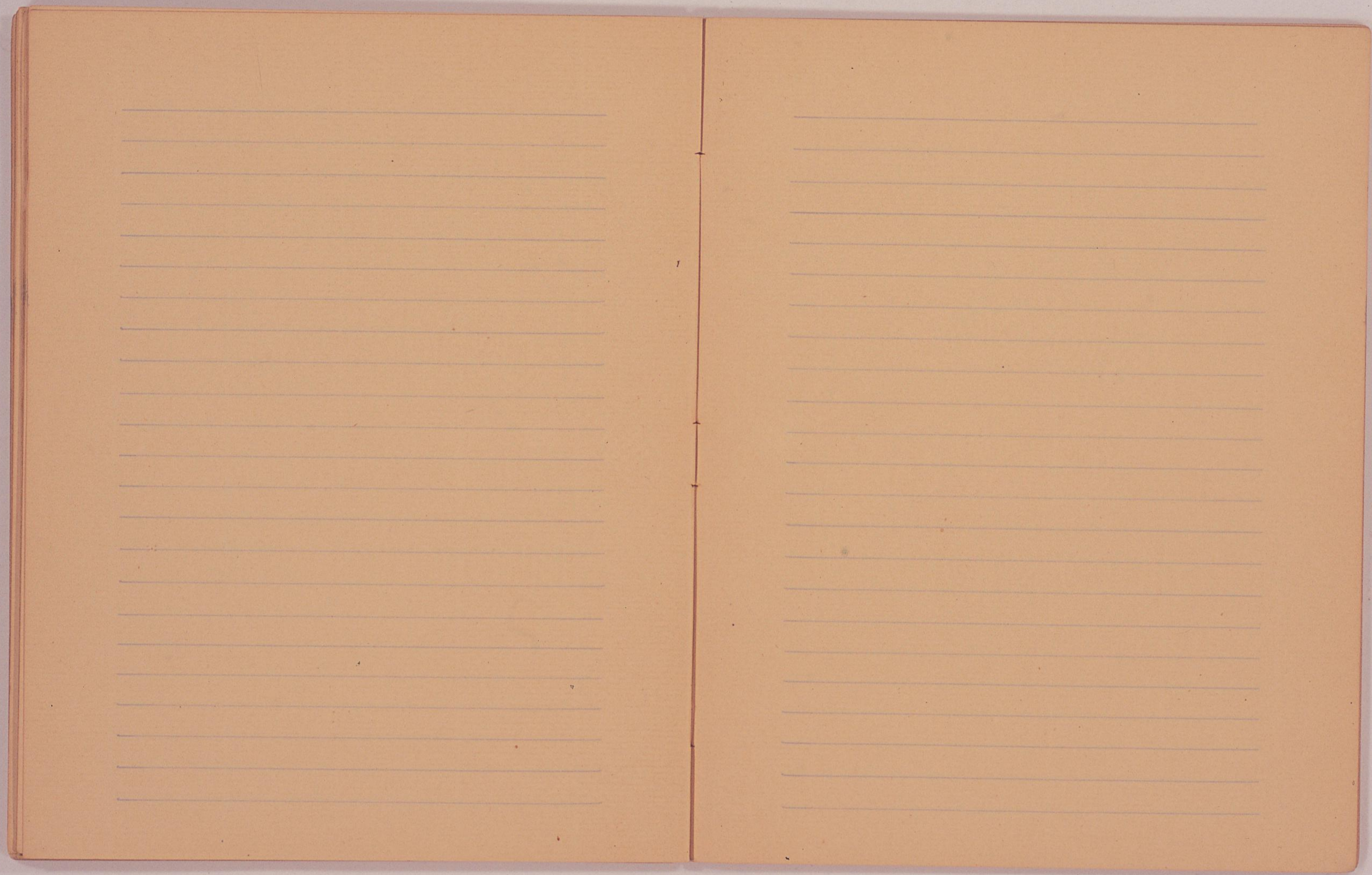
1. 生産力の破壊
2. 蓄積財の破壊、富の浪費、不生産的消費の増大
3. 各国内の不均衡を促進
4. 國際間の貿易の流の變更
5. 世界諸地域の生産力の~~不均~~不均衡を~~増大~~促進

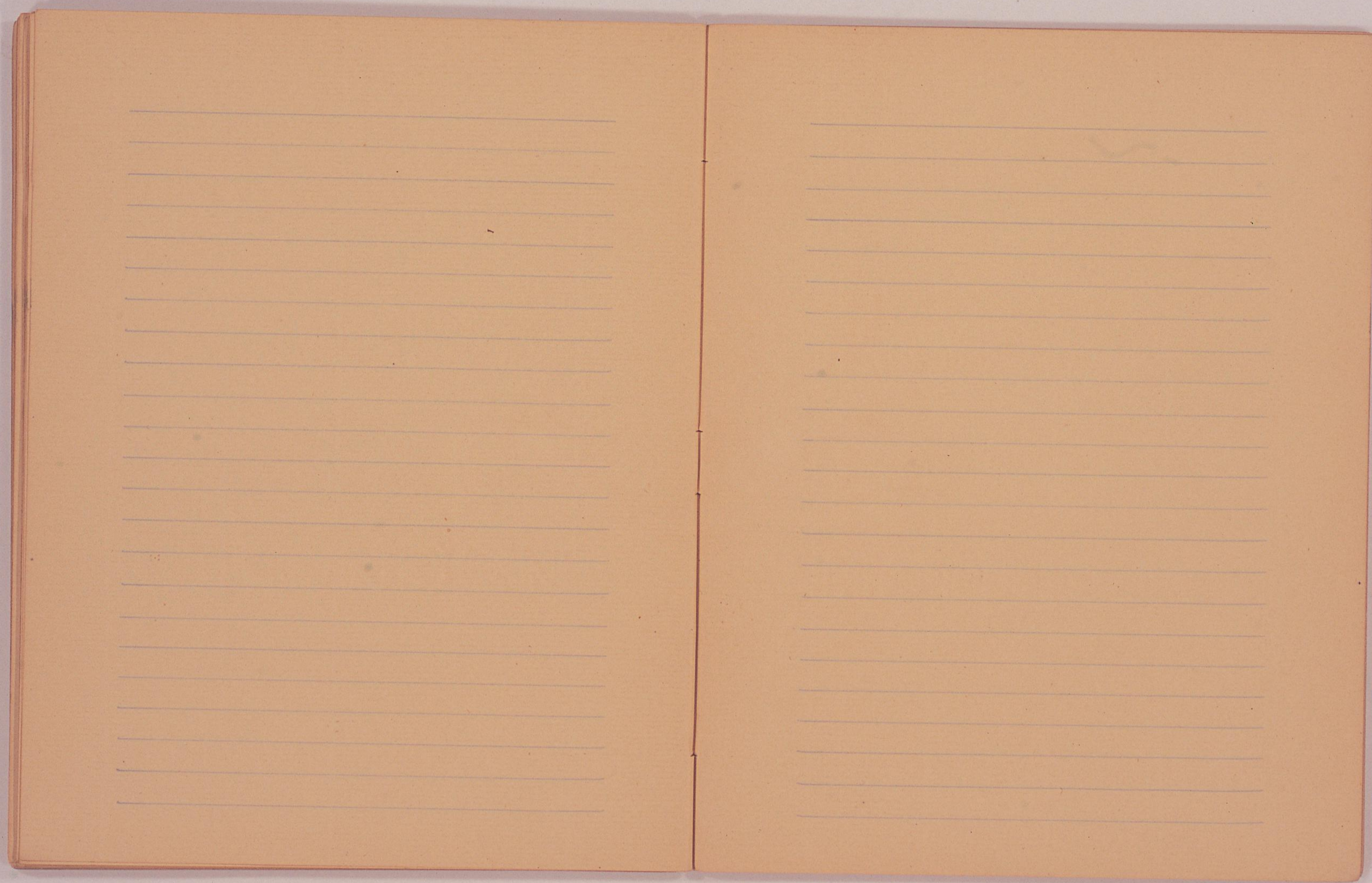
二、國際地位と國際平物

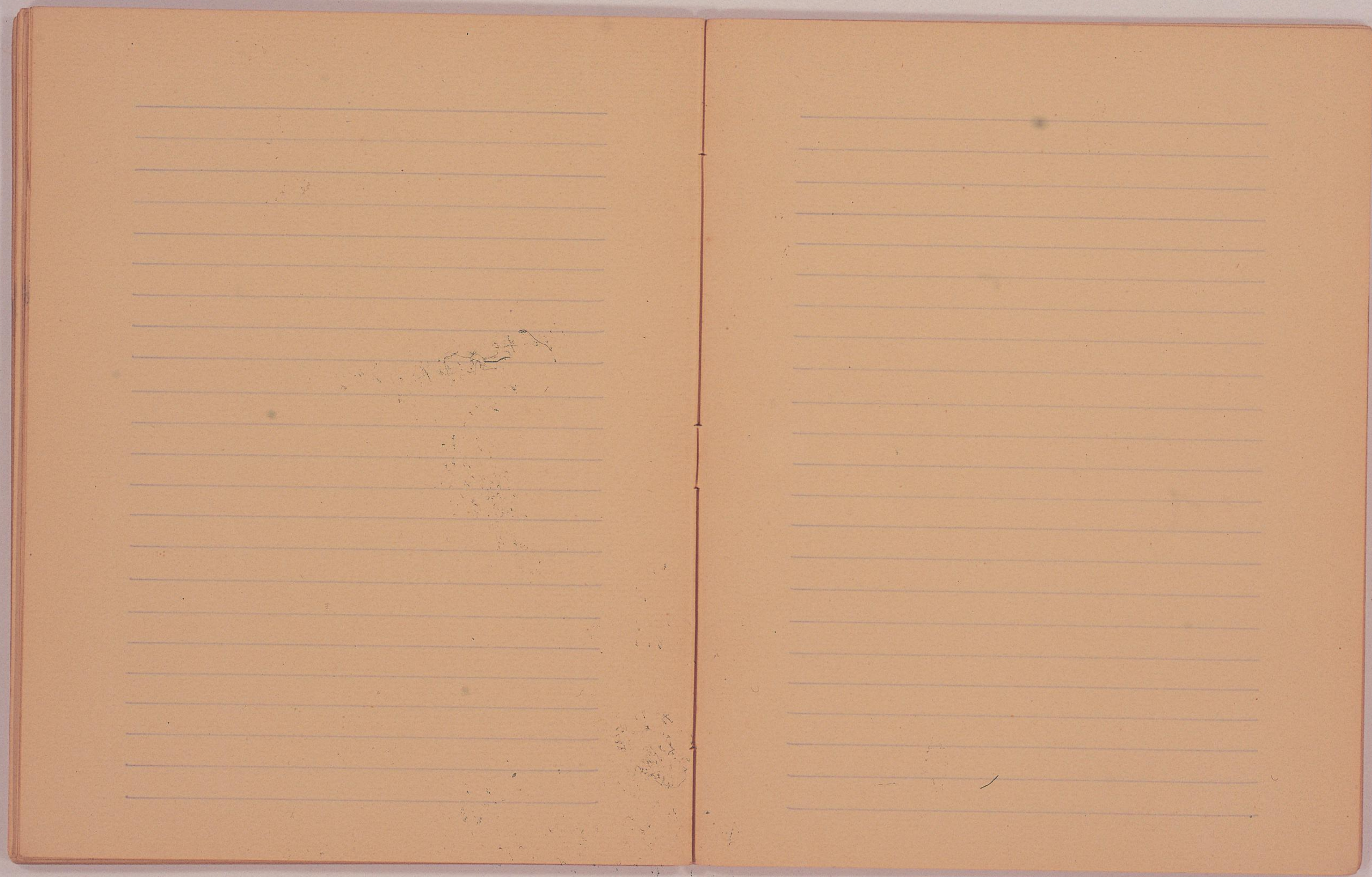
三、戰後の日本が國際地位に再編入せられた道











説明 ターゲット

これより最終
ページまで白紙に
なりますので撮影
を省略します。

